

事案名	第4航空教育隊の事案（千葉県 平成17年度新規事案）
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元第4航空教育隊員）〔1〕 ・『陸軍航空の鎮魂 総集編』〔2〕 ・「特殊物件処理関係」〔3〕 ・『歴史アルバム かしわ』〔4〕 ・『平和への願い（増補版）』〔5〕 ・「八木郵便局から見た陸軍柏飛行場の兵士たち」（『流山研究におどり 第6号』）〔6〕
資料内容概要	<p>終戦を柏付近で迎えた旧軍関係者は、終戦直後に駐屯地付近に掘られた穴は毒ガス弾等を埋めるために用意されたのではないかと噂を聞いたことがあると証言している。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦を柏付近で迎えた元第4航空教育隊員は、昭和20年8月16日朝起床すると、「自分たちのバラックの兵舎から20mくらい離れた松林の中に広さ20～30坪程で、深さ約3mの大きな穴が掘られており、兵士たちが集まっていた。穴の周囲には掘削した際に出る土が盛られていなかったのので、何かを埋めるために掘られた穴なのだろうと思った。自分たちの部隊にはこの穴を掘った者はいなかったのので、どこかよその部隊が掘ったのではないか」、「そうこうするうちに兵士たちの間で、この穴は毒ガスを埋めるために掘られたのだろう、国際法違反の問題をまず消すのだろう等という噂が誰ともなくまことしやかに広まった。そのとき、ある兵士から、糜爛性ガスのイペリットは缶に入っており、そのガスに触れると手も足も腐ってしまうという話を聞いた。自分は毒ガスを見たことはないが、このとき聞いた「イペリット」という名はなぜか記憶に残った。自分が穴を見たのはこれが最初で最後である」と証言している〔1〕。 <p>その他情報</p> <p>(1) 第4航空教育隊の所在に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4航空教育隊は、昭和13年7月に立川で編制され、昭和15年2月柏に移駐、同地にて航空兵基礎教育・特業教育を実施。昭和20年8月29日復員と記されている（解散時の隊号は「紺第572 東部第102」）〔2〕。 ・千葉県下駐屯部隊名一覧表によれば、第52航空師団第4航空教育隊は、千葉県東葛飾郡柏町に存在していたと記されている〔3〕。 ・第4航空教育隊（102部隊）は、昭和15年2月、高田と十倉二にまたがる地域に開隊した部隊で、兵員はおよそ3、

	<p>500人～4,000人であったが、終戦時には7,000人を超えたという記されている〔4〕。</p> <ul style="list-style-type: none">・「戦時関係諸施設並びに慰霊碑等の市内現況地図」には、航空教育隊（東部102部隊、柏飛行場、東部105部隊、航空分廠等の位置が示されている〔5〕。・昭和20年8月に、第4航空教育隊の本部が現在の流山市域に存在した国民学校に移転してきたと記されている〔6〕。 <p>(2) 第4航空教育隊の毒ガス関連施設に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none">・「東部第102部隊（航空教育隊）関係」の兵営略図には、「ガス室」の位置が示されている〔5〕。 <p>(3) 柏市内の毒ガス関連施設に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none">・「東部第14部隊（工兵）関係・東部83部隊（歩兵）関係」の略図中に、「ガス講堂」の位置が示されている〔5〕。また、兵舎位置図には、「毒ガス室」の位置が示されている〔4〕。・「東部105部隊・立川航空廠柏分廠」の兵営配置図に「ガス庫」の位置が示されている〔5〕。
--	---